

○ 「Touch The Japan 2018」に出展、台湾に向け和牛をPR—輸出促進協

日本畜産物輸出促進協議会牛肉輸出部会（事務局、中央畜産会）は8月24～27日の4日間、台湾・台北市の台北世界貿易センターで開催された日本観光文化展「Touch The Japan 2018」に出展した。同展示会はテーマを「あなたの触れたい日本がきっと見つかる」とし、日本の文化や食文化を通じて日本をアピールすることを目的に、各都道府県の特産物や食文化を紹介。4日間で来場者は27万人を超え、多くの観客の目を引いた。

今回は、同協議会としては海外で初めてとなる、消費者を対象としたBtoCのイベントとなった。台湾への和牛輸出の実績は、昨年9月の解禁以来、常に高水準を維持している。また、台湾からのインバウンドは中国、韓国に次いで多く、450万人を超えている。こういった台湾への輸出量や、インバウンド需要を見ると、台湾は日本にとって最重要対象地域といえる。

イベントでは、2小間（18㎡）のブースで和牛肉の説明や試食を実施。また、300席あるメインステージでは、和牛の特徴の説明を行うとともに、カッティングと調理実演も披露した（＝写真）。カッティングでは、ロースと



モモの部位を使用してカッティングを披露し、調理実演では、▽ロース：ステーキ、炙り寿司、串焼き
▽モモ：ステ

ーキー、炙り寿司、カルパッチョ、炙りユッケ——を紹介した。メインステージでのプロモーションは、毎回立ち見を含めた500人を集め、人気を博していた。多くの聴衆を集めたことで、主催者である国際観光文化推進機構から「ベストステージパフォーマンス賞」を授与された。

メインステージに登壇したミート・コンパニオンの植村光一郎常務理事は「今回は現地マスコミの取材で、テレビ局5社、新聞社6社の対応をした。連日の放送を見て、台湾での親日ぶりもさることながら、和牛に対する人気の高さには、他の地域以上の熱を感じ、さらなる需要創出が期待できる」とコメントした。